

2025年 第21週（5月19日～5月25日）の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

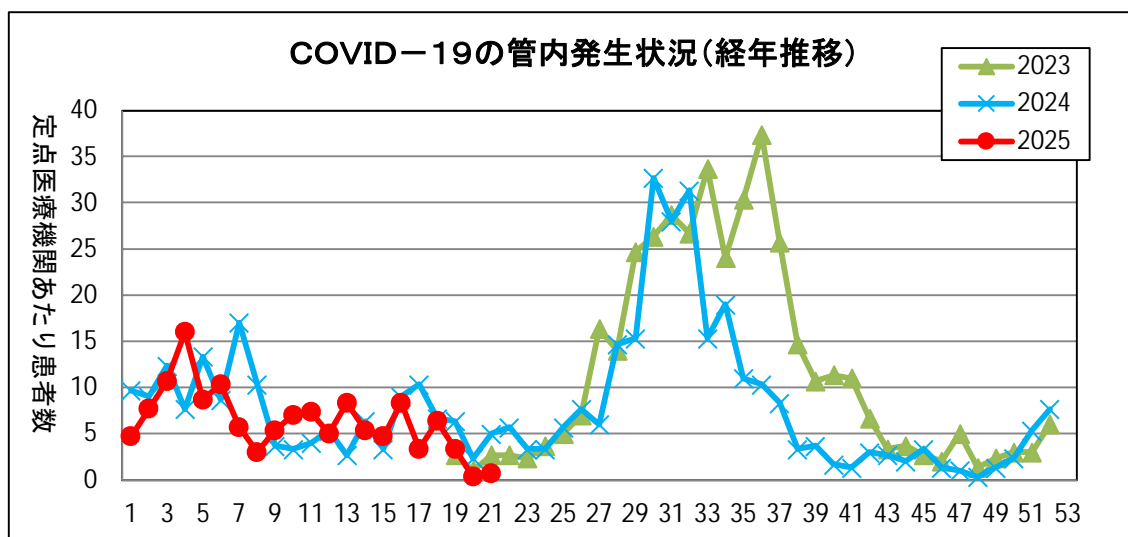
- 1 新型コロナウイルス感染症について
- 2 管内の感染症発生状況（新型コロナ以外のもの）
伝染性紅斑が終息基準値を下回りました。
- 3 県内の感染症発生状況（麻疹、百日咳）

1 新型コロナウイルス感染症について

管内では、定点あたり報告数は今週0.67人（先週0.33人）で先週から増加し、兵庫県内の定点あたり報告数は今週0.71人（先週1.02人）で、先週から減少しました。地域別では、福崎保健所管内が3.00人と最も多く、宝塚保健所管内1.40人、赤穂保健所管内1.17人となっています。

また、県内の社会福祉施設においては、今週1件（先週2件）の集団発生が報告されています。

県民の皆様には引き続き3密の回避、手指消毒、効果的な換気、マスクの適切な着用といった基本的な感染症対策をお願いします。



注）2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は定点把握になりました。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) に関する情報](#)

[兵庫県感染症情報センター](#)

◆厚生労働省ホームページ

[新型コロナウイルス感染症について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[コロナウイルス感染症](#)

2 管内の感染症発生状況（新型コロナ以外のもの）

（１）管内の全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症）

第２１週は、百日咳が１人報告されました。

（２）定点把握感染症（指定された医療機関から報告を求める感染症）

（２０２５年２１週）※定当：定点当たり患者数

インフルエンザ		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		COVID-19	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
1	0.33	-	-	-	-	3	1.5	17	8.5	-	-	-	-	-	-	1	0.5	2	0.67

ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		感染性胃腸炎（ノロウイルス）		急性呼吸器感染症	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	210	70

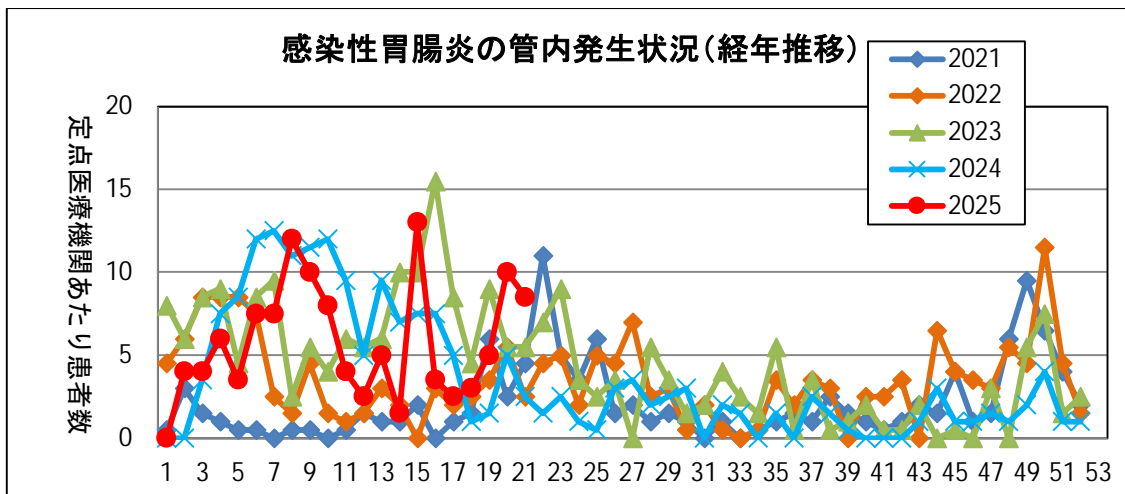
※2025年4月7日から急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

◆厚生労働省ホームページ

[急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#)

管内では、感染性胃腸炎の定点あたり患者数が8.50人で、先週（10.00人）から減少し、兵庫県でも8.79人で、先週（9.97人）から減少しました。

トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗うようにしてください。また、便や嘔吐物を処理する際は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗ってください。カキなどの二枚貝を調理する際は、中心部まで十分に加熱してください。



<感染症に関する情報>

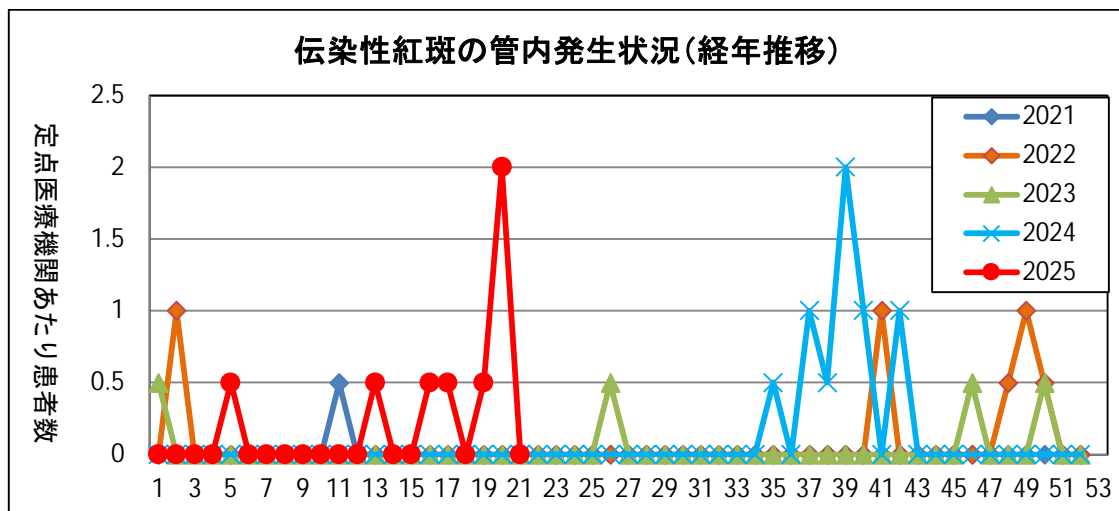
◆兵庫県ホームページ

[感染性胃腸炎（ノロウイルス等）について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[感染性胃腸炎](#)

また、管内の伝染性紅斑の定点あたり患者数は0人で、先週（2.00人）から減少し、終息基準値（1.00人）を下回りました。兵庫県では1.48人で、先週（1.18人）から増加しました。伝染性紅斑は、「ヒトパルボウイルスB19」による感染症で、両頬と手足の赤い発疹を特徴とし、頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」とも呼ばれています。子どもに多い感染症ですが、大人が感染することもあります。頬に発疹が出現する7～10日前くらい前に、微熱や風邪症状が見られることが多く、この時期にウイルスの排泄量が最も多くなり、発疹が現れたときには感染力はありません。発疹のピークは3～4日目で、7～10日経つと次第に消えていきます。一度感染すると終生免疫が得られますが、過去に感染したことのない妊婦が妊娠中に初めて感染すると、赤ちゃんが胎児水腫という病気になることがまれにあるので注意が必要です。発疹が出現する前の時期に感染力があるため、手洗いやマスクの着用等、日頃からの基本的な感染対策が重要です。



◆[国立健康危機管理研究機構ホームページ](#)

[伝染性紅斑](#)

3 県内の感染症発生状況（百日咳、麻しん）

（1）百日咳

県内では、今週139人（先週140人）の百日咳の報告があり、今年の累積患者数は1,187人となりました。当所管内でも1人の報告があり、今年の累積患者数は8人となっています。県内で今年発生した推定感染経路として、家族内感染が651人、学校内流行が213人報告されています。百日咳は主に患者の咳やくしゃみなどにより、しぶきに含まれる細菌を吸い込むことによって感染（飛沫感染）し、7～10日の潜伏期間を経て風邪症状がみられ、次第に咳の回数が増えて強くなります（約2週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（約2～3週間）。ワクチン未接種の乳幼児が感染すると、嘔吐や無呼吸を伴い、重篤化しやすいので注意が必要です。また、乳児期にワクチン接種を受けていても、終生免疫は得られないので、成長後に感染することがあります。予防として、咳エチケットなどの一般的な感染対策が有効となります。

<感染症に関する情報>

◆[兵庫県ホームページ](#)

[百日咳について](#)

◆[国立健康危機管理研究機構ホームページ](#)

[百日咳](#)

[百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（第三版）](#)

(2) 麻しん

5月23日、加古川保健所管内で1名の麻しん患者の発生があり、今年の県内の累積患者数は12人となりました。麻しんウイルスは極めて感染力が強く、免疫を持ってない状態で感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。感染すると約10～12日の潜伏期間の後、38℃前後の発熱が2～4日続き、咳、鼻水といった風のような症状が出ます。その後、少し体温が下がり、再び高熱（多くは39℃以上）が出るとともに、発疹が出現します。発疹出現後3～4日間で解熱し症状は軽快、合併症のない限り7～10日後には症状が回復します。麻しん患者と接触したおそれのある方で、21日以内に発熱、風邪の症状、発疹等の症状があった場合は、事前に医療機関に「麻しんの可能性があること」を連絡の上、マスクを着用し受診してください。また、医療機関の皆様におかれましては、麻しんの疑い例を診察した場合には、最寄りの健康福祉事務所（保健所）まで連絡をお願いします。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[麻しん（はしか）患者の発生について](#)

[麻しん（はしか）について](#)

◆厚生労働省ホームページ

[麻しんについて](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[麻しん](#)